

羽村市小中一貫教育実施計画(二中校区版)

～子どもたちの『生きる力』を育むために～

令和 2 年度～令和 6 年度

羽村市立富士見小学校

羽村市立栄小学校

羽村市立松林小学校

羽村市立羽村第二中学校

目 次

第1章 計画の策定にあたって

- I 二中校区小中一貫教育実施の背景 1
- II 4校の教育課題と今後の方向性

第2章 実施計画の体系

- I 小中一貫基本計画の基本目標 3
- II 羽村第二中学校区の教育目標
- III 二中学校区の目指す生徒像
- IV 小中一貫教育の組織 4

第3章 実施計画の具体的な展開

- I 5分科会の取組
 - 1 学習指導分科会 5
 - 2 生活指導分科会 6
 - 3 特別活動分科会 7
 - 4 キャリア向上分科会 8
 - 5 特別支援教育分科会 14

第1章 計画の策定にあたって

I 二中校区小中一貫教育実施の背景

羽村市教育委員会は、平成18年に「羽村市立小・中学校一貫校検討委員会」を設置し、小中一貫教育に関する検討を重ねた。そして、平成21年に最終報告書を提出し、「羽村市小中一貫教育基本計画～義務教育9年間を通じた一貫教育を目指して～（平成22年度～平成26年度）」を策定した。この中に、富士見小学校、栄小学校、松林小学校及び羽村第二中学校は『羽村第二中学校区施設分離型小中一貫教育校』として、平成24年度からの小中一貫教育の完全実施が明記された。そこで、本校区で教職員、教育委員会、保護者・地域の代表で構成する実施計画作成委員会において「小中一貫教育実施計画（二中校区版）」を策定し、小中一貫教育を実施した。平成27年、羽村市教育委員会は「羽村市小中一貫教育基本計画～義務教育9年間を通じた一貫教育を目指して～（平成27年度～平成31年度）」を策定し、5か年が経過した令和2年2月、新たに「第3次羽村市小中一貫教育基本計画～子どもたちの『生きる力』を育むために～（令和2年度～令和6年度）」を策定した。これを受け、本校区でもこれまでの実施計画を改定し、新たに本実施計画である「令和2年度羽村市小中一貫教育実施計画（二中校区版）」を策定した。

II 4校の教育課題と今後の方向性

【全体を通して】

新学習指導要領に示されるこれからの教育を進めていくうえで、「学習指導」、「生活指導」、「特別活動」等の4校共通の課題について、小中連携や小小連携を推進し、全教職員が共通理解を図り、創意工夫に満ちた教育活動を実践していくことが重要である。また、今後、二中校区の小中一貫教育がさらにより良い方向に発展・改善していただくために、全教職員が主体者となり、各会で積極的・建設的な意見を出し合い、協議を進める中で実施計画の改善を図っていく。

【学習指導について】

4校共通の課題は、基礎学力の向上と家庭学習の定着である。これらの課題を解決し、新しい学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を実現し、「学びに向かう力」を育成するために、羽村市小中一貫教育基本カリキュラムを基に、9年間を見通した系統的な教科学習を進める。また、小中の授業参観や乗り入れ授業等を充実させることにより、児童・生徒理解と各教員の授業力向上を図る。さらに、自主学習ノートの取組は、一定の成果を上げていることから、各校の取組として継続して進める。

【生活指導について】

4校共通の課題は、挨拶の励行、適切な言葉遣い、基本的な生活習慣の定着である。また、SNSを使ったトラブル等も起きている。これらの課題を解決するには、児童・生徒への小中一貫した生活指導を継続的に行っていくことが重要である。

また、4校共通事項である「生活力4つの舞」、「生活のきまり」等は、新学習指導要領の実施

を踏まえ、小中の発達段階を考慮し、児童・生徒が自分事として捉えられるようなものに改定していく。

【特別活動について】

4校共通の課題は、児童・生徒のリーダーシップを育て、主体的な活動を通して豊かな人間性や社会性をより一層育成することである。この課題解決に向け、交流活動等を更に充実させたものにし、人権教育を推進していく。

【羽村市の特色ある教育内容について】

羽村市の特色ある教育内容は以下の3つである。

1. 児童・生徒が国際社会に対応できる能力を育成するための『英語教育』
2. 郷土羽村における歴史、伝統、文化を尊重し、郷土愛を育む『羽村学』
3. 社会的な自立が図られる能力を育成するための『人間学』

本校区でこれまで別の分科会であった「羽村学分科会」と「人間学分科会」を合併し、「キャリア向上分科会」とし、「二中校区系統表」をもとに実施する。二中校区の児童・生徒の実態及び地理的特色等を考慮して、より良い系統表に改善していくことが課題である。人間学グループにおいては、二中校区版キャリアパスポートを羽村市版のものを参考に作成し、活用を図ることで、子ども自身が9年間を見通しながら自らの生き方に主体的に考え、取り組む態度を養う。また、職場体験発表会では、中学生の発表に加え、児童・生徒が意見交換する等交流を図る場を考える。

英語教育は、今後も羽村市小中一貫教育基本カリキュラムに準拠して行う。

【特別支援教育について】

4校共通の課題は、児童・生徒個々の能力や可能性を最大限に発揮できるよう、個々の教育的ニーズに応じた指導の充実を図っていくことである。また、近年、外国籍の児童・生徒が増加傾向にあり、日本語指導員との連携を含めた対応の基本的な考え方について、協議を深めていく。

【保護者・地域との連携について】

中学校区が一つのまとまりとして、学校が保護者・地域と連携・協力し、どのように小中一貫教育を推進していくかが課題である。その解決のために、授業等における学習サポーターや専門的な知識・技能を有する地域人材を活用することで地域に開かれた教育を推進し、地域と共にある学校づくりを行う。また、各校のPTAや市P連と連携を図りながら、家庭教育セミナーを進めていく中で、保護者・地域と学校が連携して子供たちの教育にあたることを目指す。

第2章 実施計画の体系

I 小中一貫基本計画の基本目標

これまでの取組の成果と課題を踏まえ、以下の4つの基本目標に向かって、小中一貫教育を推進することで、「生きる力」を育む。

基本目標1 豊かな心の育成

基本目標2 確かな学力の育成

基本目標3 個性の伸長と資質・能力の向上

基本目標4 家庭・地域・学校が築く教育の推進

II 羽村第二中学校区の教育目標

<富士見小学校>

かかわりを大切にし、自分物語をつくる楽校
「やさしさいっぱい富士見小」

生きる力をはぐくみ、公共の精神を尊び、人間性豊かに成長する児童の育成

- ・やさしく かかわり力
- ・かしこく 課題発見解決力
- ・たくましく 実践力・継続力

<羽村第二中学校>

新しい時代をになう、自主的な人間の育成

- ・最後までやりぬく、たくましい人
- ・心豊かな、思いやりのある人
- ・よく考え、より高い目標を追求する人
- ・決まりを守り、よりよい社会をつくる人

<栄小学校>

21世紀に貢献する社会人をめざして ふるさとを愛し、豊かな心と、たくましく生きる力をもつ児童の育成

- ・よく考えて学ぶ子
- ・明るくじょうぶな子
- ・助け合って働く子

<松林小学校>

人権尊重の精神を基調として、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成

- ・よく考える子
- ・いつも元気な子
- ・こころのやさしい子

III 二中学校区の目指す生徒像

- ・基本的な学習内容を身に付け、自らよく考え判断し、生きる力をはぐくみ、より高い自分を追求する児童・生徒【知育】
- ・公共の精神を尊び、仲間や自分を大切にし、人間性豊かに成長する、思いやりのある児童・生徒【徳育】
- ・基本的な生活習慣を身に付け、きまりを守り、心身ともに健康で、自ら進んで行動し、最後までやりぬく、たくましい児童・生徒【体育】

IV 小中一貫教育の組織

【企画委員会】

4校の校長、副校長で企画委員会を組織し、運営委員会の前に開催し、二中校区の小中一貫教育運営に関する決定機関とする。

【運営委員会】

4校の管理職と主幹教諭、各分科会長、二中校区学習コーディネーターにより運営委員会を組織する。本委員会は4校校長の指導の下、二中校区小中一貫教育に係わる課題を協議し、運営にあたる。議事の内容によっては、それに係わる分科会の各校の世話人を臨時に召集する場合があります。年間7回開催する。

運営委員会の内容を二中校区小中一貫教育広報誌「個々彩々」にて、全教員に周知する。

【全体会】

二中校区の全教員で組織し、年間2回実施する。第1回は、小中一貫教育の取組について共通理解を図る。第2回は、取組に対する成果と課題、さらに次年度の方向性について確認する。全体会前の授業参観は、第1回は羽村第二中学校で、第2回は栄小学校(行政順輪番)で実施する。

【分科会】

全教員が「学習指導分科会」、「生活指導分科会」、「特別活動分科会」、「キャリア向上分科会」、「特別支援教育分科会」の5分科会のいずれかに所属する。分科会が担当する活動や取組について、計画立案・運営にあたる。全体会後に開催する。各校で各分科会の世話人を決め、その世話人の中から各分科会長を決める。

【成果報告会】

成果報告会は年1回、各校の学校評議員会で行う。今年度の成果と課題を次年度の小中一貫実施計画の改善に反映させる。

【学校支援地域本部】

二中校区の学習コーディネーターを中心に事務局を二中に置く。特色ある教育活動交付金により事務員を1名確保し、4校の教育活動における講師招聘や人材バンク作り、謝礼の支払い等の業務を行う。

第3章 実施計画の具体的な展開

I 5分科会の取組

1 学習指導分科会

(1) 組織

4校全教員の原則20%程度で組織する。各校で5教科（国語、社会、算数・数学、理科、英語）の担当を決める。

(2) 具体的な取組

「主体的・対話的で深い学び」を実現し、「学びに向かう力」を育成するために、何が必要かを検討し、ねらいを明確にし、以下の取組を行う。

① 9年間を見通した系統的な学習の推進

5教科の各校担当で、「羽村市小中一貫教育基本カリキュラム」を基に、9年間を見通した系統的な学習を進める上で意見交換を行い、一緒に取り組める事項に関しての共通理解を図り、授業を実践する。

② 乗り入れ授業（算数・数学、英語）

- ・①の9年間を見通した系統的な学習について共通理解を図ったことを生かし、小中の交流と授業力向上を目指した乗り入れ授業を行う。指導略案を1週間前までに、打合は3日前までに行う。
- ・小学校6年生の算数、英語の授業に、中学校の数学、英語の教員がT2として入り、各校で年間1回ずつ行う。
- ・時期については中学校定期考査の午後にするか、別日にするか、学習分科会で調整の上、第1回分科会前までに決定する。

③ 基礎・基本の定着

各校において授業以外の時間の取組を通して、計算や漢字、言葉の学習を行い、基礎・基本の定着を図る。

- ・朝読書（小中全校）
- ・計算タイム（富小）、ステップアップタイム（松小）
- ・計算タイム（栄小）、漢字テスト（二中）、スペリングコンテスト（二中）

④ 家庭学習の定着

各校において、家庭学習カード、音読カード（小）、家庭学習記録表（中）、学級だより等による取組状況の確認及び個別面談等を通して学校と家庭が連携して取り組んでいく。

★小中4校の共通した取組

- ・「コツコツノート」；小学校6年生（原則毎日取り組む。）
- ・「自主学習ノート」；中学校1年生～3年生（原則毎日取り組む。）
- ・家庭学習記録表；小学校6年生～中学校3年生（原則毎週月曜日に提出。）

2 生活指導分科会

(1) 組織

4校全教員の原則20%程度で組織する。ただし、生活指導主任は必ず所属する。

(2) 具体的な取組

新学習指導要領の実施を踏まえ、小中の発達段階を考慮し、児童・生徒が自分事として捉えられるような取組を行い、各校で共通理解を図りながら一貫した生活指導を継続的に行っていく。

① 「生活力 4つの舞」「生活のきまり」「SNSルール」に沿った生活指導の充実

3つの小学校の児童が二中に入学することを踏まえて、各校の児童・生徒の実態に合わせたものを今年度作成していく。

それに基づき各校で児童・生徒の健全育成に努める。

「生活力 4つの舞」 (参考 平成31年度)

礼儀の舞

～気持ちのよいあいさつを心がけよう～

ルールの舞

～学校・家庭・社会の決まりを積極的に守ろう～

生活習慣の舞

～規則正しい生活のリズムを刻もう～

責任の舞

～自覚と責任をもって諸活動に取り組もう～

「生活のきまり」(参考 平成31年度)

【小学校3校で統一】

○子供だけでショッピングモール、コンビニ、スーパー、ファーストフード店、ゲームセンター、カラオケ、映画館には行ってはいけません。

【中学校と小学校4校で統一】

○スマートフォン、携帯電話は、学校に持ってきてはいけません。

○お金の貸し借りや、おごったりおごられたりは禁止です。

○ピアス、アクセサリ(ミサンガ・ネックレス等)、髪染めは禁止です。

「SNSルール」 (参考 松林小)

【ルール1】 SNSは1日1時間までにしましょう。

【ルール2】 午後9時以降はSNSを使わないようにしましょう。

【ルール3】 家族と話し合ってからSNSを使う場所を決めよう。

【ルール4】 フィルタリングを付けてもらおう。

【ルール5】 家族と話し合ってから、パスワードを設定しよう。

【ルール6】 書き込んだ内容は相手の気持ちになって読み返そう。

【ルール7】 自分や友だちの個人情報(住所、電話番号等)は絶対に載せないようにしましょう。

【ルール8】 大切なことは直接話そう。

【ルール9】 SNS以外にも楽しいことがたくさんあることを忘れないようにしましょう。

【ルール10】 困ったことが起きたら、すぐに先生やおうちの人に相談しよう。

②小中合同あいさつ運動

- ・年間2回実施する。
- ・小中合同あいさつ運動をきっかけに、小中の縦のつながりをもたせる。
- ・あいさつ運動を通して、自らあいさつすることのできる児童・生徒を育てる。
- ・中学生はボランティア活動として参加を募り、事前指導を行い、参加人数を各校に連絡する。

③部活動体験

- ・小学生が中学校の部活動を体験することで、中学生に憧れる気持ちを育む。
- ・中学生が小学生に模範を示そうとする姿勢を育む。

④情報交換の充実

- ・分科会時を活かし、小中、小小の情報交換などを充実させ、児童・生徒の必要な情報を交換する。

3 特別活動分科会

(1) 組織

4校全教員の原則20%程度で組織する。ただし、各小中学校から生徒会、代表委員会担当が1人、各小学校から6年担任が最低1人は所属する。

(2) 具体的な取組

4校共同で児童・生徒のリーダーシップを育て、主体的な活動を通して豊かな人間性や社会性を育成するために、交流活動等を更に充実させたものにし、人権教育を更に推進する。

①ハートフルミーティングの取組

- ・人権を含め児童・生徒に関わりの深い教育課題等の内容をテーマに二中の生徒会と各小学校代表委員会を中心に実施する。会場は二中で、職場体験学習発表会の後に実施する。
- ・羽村二中学生徒会本部が発行する生徒会通信『開拓』を各小学校にも配布し、小学校は児童の発達段階に応じて、読み合わせ、掲示等を行う。また、小学校3校で取組内容の交流を図る。

②二中体験入学・説明会

- ・時期：2月下旬から3月上旬にかけての定期考査最終日の午後
- ・〈前半〉6年生児童が二中において、中学校の授業を体験する。
- ・〈後半〉二中学生徒会本部主催の説明会に3校の6年生が出席する。

4 キャリア向上分科会

(1) 組織

4校全教員の原則20%程度で構成する。ただし、各小学校から交流のある学年担任が最低1人は所属する。また、中学校からは、職場体験発表会を行う学年教員が1人は所属する。構成メンバーの中から、羽村学グループと人間学グループに分かれて活動する。

(2) 具体的な取組

ア 羽村学（郷土学）グループ

羽村市における歴史、伝統、文化を学ぶことで郷土愛を育むために、小中一貫教育カリキュラムに沿って、9年間を見通し系統立てて指導する。前期（小学校1年生～4年生）は「羽村に親しむ」、中期（小学校5年生～中学校1年生）は「羽村にかかわる」、後期（中学校2年生～3年生）は「羽村の明日をつくる」を学習テーマとし、以下に示す二中校区系統表に基づいて年間の学習を進める。

羽村学（郷土学習） 二中校区系統表		
富士見小学校	栄小学校	松林小学校
第1学年	第1学年	第1学年
「あきのあそび虫さがし」 9月 「秋のあそび 木の葉や実、いろいろな葉っぱ」10・11月 「あそびにいこうよ 春の遊び」6月 【生活科】	「ほかほかのはらへとびだそう」5・6月 「はないっばいになあれ」5～9月 【生活科】	「公園めぐりをしよう」 「あそびにいこうよ」9月 【生活科】
第2学年	第2学年	第2学年
「わたしの町大すき 町たんけん」 6・7月 「わたしの町大すき お店たんけん」 9・10月 【生活科】	「しゅっぱつ なかよしたんけんたい」4月 「もっとまちをしりたいね」10・11月 「〇〇をそだてよう」 5から12月 【生活科】	「町たんけんをしよう」 「私の町、大好き」6～9月 「花いっぱいにしてよう」11月 【生活科】
第3学年	第3学年	第3学年
「地域自慢をしよう」（間接交流） 7・8・9月 「羽村の昔にタイムスリップ」1・2月 【総合的な学習の時間】	「ぼくたち・わたしたちが暮らす地域を調べよう」（間接交流）5～9月 【社会科・総合】 「地域自慢をしよう」（間接交流）10・11月 【総合的な学習の時間】	「学区のパンフレットを作ろう」（間接交流）12月 「地域自慢をしよう」（間接交流） 10・11月 【総合的な学習の時間】
第4学年	第4学年	第4学年

「羽村のPR大使になろう」9・10月 「玉川上水調べ」11・12月 (直接交流)【総合的な学習の時間】	「玉川上水探検隊」(直接交流) 4～12月【総合的な学習の時間】	「地域安全マップ」5・6月 「玉川上水を調べよう」10～12月 (直接交流) 【総合的な学習の時間】
第5学年	第5学年	第5学年
「稲作体験」6～10月 【総合的な学習の時間】	「安全マップ作り」4～6月 「稲作体験」6～10月 【総合的な学習の時間】	「稲作体験をしよう」5～11月 「羽村太鼓を体験しよう」 11～1月 【総合的な学習の時間】
第6学年	第6学年	第6学年
「みんなで生きる町羽村」12～2月 【総合的な学習の時間】	「われら羽村人」4～9月 <羽村の環境を考える> 【総合的な学習の時間】 「なかよし班学習」【学活 学行】 全学年	「羽村市をどんな町にしたい か考えよう」12月 【総合的な学習の時間】

羽村第二中学校 考えることから行動に

第1学年 ・「地域を知ろう」【総合的な学習の時間】(直接及び間接交流)

第2学年 ・「AED等救急救命講習会」【総合的な学習の時間】 6月

・「羽村市総合防災訓練」【総合的な学習の時間】 9月

第3学年 ・市への提言[これからの羽村を考える] 7～11月

羽村学 (郷土学習) 小学校3校共通学習

第1学年	地域の自然・動植物について【生活科】
第2学年	地域探検 【生活科】
第3学年	羽村市について
第4学年	玉川上水について【総合的な学習の時間】 (玉川上水交流会)
第5学年	「稲作体験」【総合的な学習の時間】
第6学年	羽村の環境について【総合的な学習の時間】

イ 人間学（キャリア教育）グループ

児童・生徒が自らの生き方について、主体的に考え、取り組む態度を育てるために、小中一貫教育カリキュラムに沿って、生活科や総合的な学習の時間の内容をキャリア教育の視点で見直し再編成を行った。前期（小学校1年生～4年生）は「友達と学ぼう」、中期（小学校5年生～中学校1年生）は「自分を見つめよう」、後期（中学校2年生～3年生）は「社会に向かって」をテーマとして以下に示す二中校区系統表に基づいて人間学の学習を進める。5年生は今後、交流できることを検討していく。9年間を見通した二中校区版キャリアパスポートを作成し、活用する。

人間学（キャリア教育） 二中校区系統表

※人間学とは・・・羽村市や地域の教育資源を活用し、他者との関わりや、やりとりの中でなされる活動を中心としたキャリア教育

富士見小学校	栄小学校	松林小学校
第1学年	第1学年	第1学年
『むかしの遊び』 【生活】 ①人間 ③課題	『むかしからのあそび』 【生活】 ①人間 ③課題 『いへのしごと』 【生活】 ①人間③課題 『わたしのかぞく』 【生活】 ①人間②自己 『あこがれ・夢広場』 【生活】 ②自己 ④キャリア	『むかしあそびをしよう』 【生活】 ①人間 ③課題
単元の目標 『むかしの遊び』 昔遊びとしてのお正月遊びには何があるか 関心 をもち、昔遊びには様々なものがあることに 気付く 。	単元の目標 『むかしからのあそび』 昔からの遊びを調べ、 クラスや学年の友達と共に楽しむ 。 『いへのしごと』 家の仕事について調べ、 意欲を持って役割を担う 。 『わたしのかぞく』 家族のことを知り、感謝の気持ちを伝える 。 『あこがれ・夢広場』 自分を取り巻く 環境・人々・地域 の中に様々な 世界 （未知のもの、高度な知識・熟練を要するもの、より専門的で高度な技術を要するもの等）があることを 知り、認識を広げ、興味関心をもつ 。また、自分のこれからの 学び方 生き方、 考え方、価値観 を見直すきっかけとする。	単元の目標 『むかしあそびをしよう』 お年寄りや2年生から教えてもらう などして昔の遊びに 興味 をもち、昔の遊びにはいろいろなものがあることに 気付く 。
第2学年	第2学年	第2学年
『むかしあそびをしよう』 【生活】 ①人間 ④キャリア	『なつかし栄横丁』 (むかし遊び)	『むかしあそびをしよう』 【生活】 ①人間 ③課題

	『ミニワンダーランドをやろう』 『グリーン東京と交流しよう』 『あこがれ夢広場』 【生活】①人間 ③課題 ④キャリア	
単元の目標 『むかしあそびをしよう』 1年生の時の体験をもとに、 1年生に分かりやすく昔の 遊びを教える。	単元の目標 『なつかし栄横丁』 昔遊びについて調べ、教わりたい 昔遊びを決め、 地域の方から教えてもら う活動を通して 交流 を楽し む。 『ミニワンダーランドをやろう』 お店の計画・準備を行い、 1年生 と 共に活動する活動を通して 交流 を 楽しむ。 『グリーン東京と交流しよう』 学年で出し物を決めて練習し、 グ リーン東京 で披露する活動を通し て交流を楽しむ。 『あこがれ夢広場』 自分を取り巻く 環境・人々・地域 の中に様々な 世界 (未知のもの、高度 な知識・熟練を要するもの、より専 門的で高度な技術を要するもの 等)があることを 知り 、認識を広 げ、 興味関心 をもつ。また、自分の これからの学び方や生き方、考え 方、価値観を見直すきっかけとする。	単元の目標 『むかしあそびをしよう』 意欲的にお年寄りから 教え てもら ったり、1年生に分か りやすく昔の遊びを 教えたり する。
第3学年	第3学年	第3学年
『おはやし体験をしよう』 【総合的な学習の時間】 ①人間 ③課題	『あこがれ・夢広場』(仕事調 べ) 【総合的な学習の時間】 ①人間 ③課題 ④キャリア	『動物となかよし』 【総合的な学習の時間】 ③課題 『人と人とのつながりを考え よう』特別支援学校交流 【総合的な学習の時間】 ①人間

<p>単元の目標</p> <p>『おはやし体験をしよう』</p> <p>おはやしについて知っていることを話し合い、興味関心をもったことについてグループを作り、インターネットや本を使って調べたり、体験したりしたことをまとめ、発表する。</p>	<p>単元の目標</p> <p>『あこがれ・夢広場』</p> <p>自分を取り巻く環境・人々・地域の中に様々な世界(未知のもの、高度な知識・熟練を要するもの、より専門的で高度な技術を要するもの等)があることを知り、認識を広げ、興味関心をもつ。また、自分のこれからの学び方や生き方、考え方、価値観を見直すきっかけとする。</p>	<p>単元の目標</p> <p>『動物となかよし』</p> <p>望ましい言葉や挨拶で外部講師(飼育員さん)にインタビューしたり、聞き取ったりする。</p> <p>動物の生態など、調べたことを自分なりに表現する。</p> <p>『人と人とのつながりを考えよう』特別支援学校交流</p> <p>具体的な関わり方のめあてをもって、特別支援学校の友達と関わる。</p>
<p>第4学年</p>	<p>第4学年</p>	<p>第4学年</p>
<p>『動物ガイドをしよう』</p> <p>【総合的な学習の時間】</p> <p>① 人間 ④ 課題</p>	<p>『福祉センターを調べよう』</p> <p>① 人間</p> <p>『あこがれ・夢広場』</p> <p>【総合的な学習の時間】</p> <p>① 人間 ③ 課題 ④ キャリア</p>	<p>『動物ガイドをしよう』</p> <p>【総合的な学習の時間】</p> <p>① 人間 ③ 課題</p> <p>『人と人とのつながりを考えよう』特別支援学校交流</p> <p>【総合的な学習の時間】</p> <p>① 人間</p>
<p>単元の目標</p> <p>『動物ガイドをしよう』</p> <p>学習計画を立て、本やインターネット資料を用いて動物について意欲的に調べ、羽村動物園で動物ガイドを行う。</p>	<p>単元の目標</p> <p>『福祉センターを調べよう』</p> <p>障害に対して関心をもって調べ、福祉センターを見学し、得た知識や今後自分が出来ること等を交流・発表する。</p> <p>『あこがれ・夢広場』</p> <p>自分を取り巻く環境・人々・地域の中に様々な世界(未知のもの、高度な知識・熟練を要するもの、より専門的で高度な技術を要するもの等)があることを知り、認識を広げ、興味関心をもつ。また、自分のこれからの学び方や生き方、考え方、価値観を見直すきっかけとする。</p>	<p>単元の目標</p> <p>『動物ガイドをしよう』</p> <p>学習の見通しをもち、意欲的に動物や、飼育員さんの仕事について調査する。</p> <p>『人と人とのつながりを考えよう』</p> <p>様々な障害のある人がいることに気づき、望ましい関わり方を考える。</p>
<p>第5学年</p>	<p>第5学年</p>	<p>第5学年</p>
<p>『作品展ガイドをしよう』</p> <p>【総合的な学習の時間】</p> <p>② 自己 ④ キャリア</p>	<p>『あこがれ・夢広場』(仕事調べ)</p> <p>【総合的な学習の時間】</p> <p>② 自己 ④ キャリア</p>	<p>『身近な人の職業調べをしよう』</p> <p>【総合的な学習の時間】</p> <p>① 課題 ④ キャリア</p> <p>『人と人とのつながりを考えよう』特別支援学校交流</p> <p>【総合的な学習の時間】</p> <p>① 人間</p>

単元の目標 『作品展ガイドをしよう』 作品展に来られた方にガイドをし作品について説明する。	単元の目標 『あこがれ・夢広場』 自分を取り巻く環境・人々・地域の中に様々な世界(未知のもの、高度な知識・熟練を要するもの、より専門的で高度な技術を要するもの等)があることを知り、認識を広げ、興味関心をもつ。また、自分のこれからの 学び方や生き方、考え方、価値観 を見直すきっかけとする。	単元の目標 『身近な人の職業調べをしよう』 自分の家族の 職業 に関心をもち意欲的に調べる。 『人と人とのつながりを考えよう』 具体的な関わり方のめあてをもって活動に取り組み、 自らの活動を振り返る ことができる。
第6学年	第6学年	第6学年
『プロから学ぶ』 【総合的な学習の時間】 ☆中学2年生の職場体験の経験を知る。 ④キャリア	『ドリームマップ作り』 『あこがれ・夢広場』 (プロから学ぶ) 【総合的な学習の時間】 ☆中学2年生の職場体験の経験を知る。 ④キャリア	『プロから学ぼう』 【総合的な学習の時間】 ☆中学2年生の職場体験の経験を知る。 ④キャリア 『人と人とのつながりを考えよう』特別支援学校交流 【総合的な学習の時間】 ①人間
単元の目標 『プロから学ぶ』 様々な 職業 に関心をもち意欲的に調べる。 プロの人の話を聞き、 自身の夢 にどのように活かせるのかを考える。 中学生の 職場体験報告 を、興味をもって聞く。	単元の目標 『ドリームマップ作り』 中学校の 職場体験の発表 を聞き、 職業 について調べ、ドリームマップを作成し発表する。その活動を通して、 自分の将来の職業 について考える。 『あこがれ・夢広場』 自分を取り巻く環境・人々・地域の中に様々な世界(未知のもの、高度な知識・熟練を要するもの、より専門的で高度な技術を要するもの等)があることを知り、認識を広げ、興味関心をもつ。また、自分のこれからの 学び方や生き方、考え方、価値観 を見直すきっかけとする。	単元の目標 『プロから学ぼう』 様々な 職業 に関心をもち意欲的に調べる。 自分の将来像 をもち、意欲的に発表する。 中学生の 職場体験報告 について興味をもって聞く。 『人と人とのつながりを考えよう』 具体的な関わり方のめあてをもって活動に取り組み、 自らの活動を振り返る ことができる。
たて割り班活動 (特別活動)		

羽村第二中学校
第1学年
『さまざまな仕事を知ろう (職場インタビューにでかけよう)』 【総合的な学習の時間】 ④キャリア
単元の目標 職業についての理解を深め、 自分の適性 を知る。
第2学年

『職場体験』 【総合的な学習の時間】（5日間） ④キャリア
<p>単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の一環として、5日間連続の勤労体験をさせることにより、勤労の尊さや苦勞について実感させ、自分の将来について考える機会とする。 ・市内の様々な職場を訪れることにより、自分たちが住んでいる羽村市の理解を深めさせるとともに、羽村市により愛着がわくようにさせる。 ・社会の一員としての礼儀作法・マナー・常識を身につける機会とする。
第3学年
『上級学校調べ』 【総合的な学習の時間】 ④キャリア
<p>単元の目標</p> <p>上級学校の見学を通して学校について調べ、自らの進路選択に生かせるようにする。</p>

4つの能力の表示

- ① 人間（人間関係形成・社会形成能力） ②自己（自己理解・自己管理能力）
 ③ 課題（課題対応能力） ④キャリア（キャリアプランニング能力）

5 特別支援教育分科会

（1）組織

4校全教員の原則20%程度で構成する。ただし、各校の特別支援教育コーディネーターは最低1人所属する。

（2）方針

- ①小学校と中学校で情報を共有し、一人一人の発達特性に応じたきめの細かい、継続的な指導を目指す。そのために、個別の指導計画や連携型個別指導計画の内容引継ぎや情報交換を実施する。
- ②小中接続の時期には、特別支援教育コーディネーター、小学校6年担任と中学校入学準備担当者等及び管理職による情報交換を小学校ごとに必要に応じて実施する。その際、共通の引き継ぎフォーマットを活用する。
- ③特別支援教室（はばたき教室）の充実を図るため、小中の教員間、及び巡回指導教員との情報交換、連携を図る。
- ④近年、外国籍の児童・生徒が増加傾向にあり、日本語指導員との連携を図りながら日本語指導を含めた対応の基本的な考え方について、協議を深める。